

## 2期は(進)の姿を増やそう!



校長 館林 美和

4月のある日、校長室にいて「あっ、ここにカラスノエンドウがあった。」という声が窓の向こう側から聞こえてきました。3年生が新しく学ぶ教科「理科」の学習で、校舎前の花壇に生えている雑草の中から、教科書に載っている春の草花を探し出したのです。いつも遊んだり、近くを歩いたりしている場所にも「春」があることに気付いたのです。なんとなく見ているとただの雑草でしかないのですが、「見よう」「見つけよう」とすると、様々なものが見え、気付きが生まれてきます。

『見ようとしなければ、見えてこない』

これは、私たちの普段の心と行動にも同じことが言えます。本校が目指す「考える子・やさしい子・強い子」の育成は、この「ものごとを見ようとする目」をもつことから始まると考えます。

学校生活の中で「何か自分にできることはないかな」「これは安全かな(危険ではないかな)」「友達の様子はどうか」と関心をもちながら目の前のことを見ていないと、自ら気づき、考えて行動する自主的な姿は生まれてきません。私たちは、子どもたちに、人に言われなくても自分で考えて行動できる子になってほしいと願い、よく「進んで行動しましょう。」「周りの様子をよくみましょう。」と声をかけます。時には、「なぜできないの。」と問いかけてしまうことも。しかし、よく考えてみると、ただ「見なさい」「考えなさい」「やりましょう」と言うだけでは、何をどう見たりすればよいのか分からず戸惑ってしまう状態を作っているのではないかと自戒します。何か気付くためには、まず、そのものごとの「見方」を丁寧に教える必要があると感じています。前述のカラスノエンドウの発見の場では、「春の草花を見つけ、春の様子に気付くこと」が学習課題です。「春を見つけてきましょう。」では、抽象的な「春」はなかなか見つけられません。きっと担任は、春に咲く花などの例を教科書を使って「このようなものを見つけてみよう」と投げかけたのでしょ。だからこそ、「ここに〇〇があった。」と目的をもって進んで学習する姿が表れていたのだと思います。

5月、各学級では一人一人が係の仕事を受け持ったり、当番活動を行ったりして学級が動き始めています。高学年は、委員会を担当して全校のためにできることを考えて動き始めました。やり方を覚えることも進んでできるようになるための土台の一つです。進んでできる姿を引き出すために、やり方などのプロセスを示したり、行動のきっかけとなる視点を与えたりするなど言葉がけを工夫し、進んで行動できる姿を増やしていきたいと思っています。

### 【安全な廊下歩行をめざした働きかけ】

「どうしたら、右側通行ができるか」と委員会が工夫して取り組んでいます。

「右側を歩きましょう。」と呼びかけるだけでなく、これを見ることで、右側を歩こうとする気付きをうながしています。



### 【学校東側の道路拡張工事終了】

ようやく道路の拡張工事が終わり、5月25日(月)から、学校グラウンド東側市民公園の駐車場がスクールバスの発着場所になります。バスの運行予定時間の変更はありません。

また、参観日や引き渡し時の帰路も拡張した道路の通行が可能となりました。

☆落合小学校の学校ホームページ  
もご覧ください☆

様々な行事や出来事の様子を掲載  
しています。タイムリーな情報のア  
ップを心掛けています。

学校報だけでなく学校の様子が  
分かりますので、ぜひご覧  
ください。

(「中津川市立落合小学校」で検索)